しがありましたように、「行動する社協」として思い切ったことをやりたいと考えています。1つは保育所経営の検討や、本年7月よりファミリー・サポート・センターを立ちあげ、働くお母さんがたの手助けをしたり、また災害に対する備えとしての仕組み作りの整備等を地域住民と協働し、積極的に「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を推進したいと考えています。また、これらの事業を行うには、より一層の社会福祉協議会としての財政基盤強化が重要であります。

最後に、歴代の役員ならびに関係者のご労苦に対し、敬意を表させていただきますとともに、これから役職員一丸となって県下でも全国においても「丸亀に社協あり」と言われるように頑張っていきたいと思いますので、今まで以上に皆さんがたのご教授を今後ともよろしくお願いします。

今日は本当にお忙しいなか、お集まりいただき貴重なご意見を賜りありがとうございました。

**（司会）** 皆さまからいただきました貴重なご意見をしっかりと刻み、今後の運営に活かしていきたいと思っております。長時間にわたりありがとうございました。

# 座談会を終えて

丸亀市社会福祉協議会 理事
香川短期大学 教授

**宮下一彦**

（題字：書）

社協のあゆみ発刊のために座談会に七人のかたにご出席いただきました。ご発言に際しては、設立に係わる苦労話、印象に残った事業、合併に係わる思い出、今後の社協への期待と展望を語っていただきました。

始めに藤田さんは社協の57年を振り返り設立当時のことを生き生きと語ってくれました。藤田さんは米寿※を過ぎてなお知的好奇心旺盛で白寿※2に向け現役続行中で設立当時のことを知る唯一の人です。県都高松市より先に昭和28年県下で最初の設立であることを誇らしく語られました。

初代会長には民間人で弁護士の藤田協さんが就任し、構成団体は保護司からなる更生保護団体、民生委員会が設立の中心となり、また女性の大先輩として高岡キクさん、佐久間モトさん、来嶋千枝子さんらの懐かしいお名前も聴くことができました。続いて森安満里子さんも共同募金丸亀支会を支えた忘れられない人であります。

細谷さんは米寿を目前にして多くの役職にあります。昭和35年に法人化され助産院が開設された年に細谷さんのご子息の三男のかたがめでたくご誕生された話をされました。以来50年のご縁があり、今回保育所設置検討委員会長に就任され子育て事業を検討することになり不思議なめぐり合わせであります。

新土さんは飯山町長として40余年町の発展に寄与され同時に町社協会長として「福祉のまち飯山」の名を高めました。今回の丸亀、綾歌、飯山の合併に伴い設立当初の社協会長に就任

※「米寿」（べいじゅ、「米」の字を分解すれば「八十八」になることから）88歳のこと。
※2「白寿」（はくじゅ、「百」の字から「一」をとると「白」になることから）99歳のこと。

されました。座談会ではご壮健で福祉の町づくりを熱く語っていただきました。

本会会長である新井市長さんは丸亀、綾歌、飯山の新設合併という大事業を成し遂げられ今日の新市誕生に献身されました。「身を削って名を残した」ご辛苦は新生社協の礎ともなりました。座談会では本会のあゆみを深く知ることで福祉の目に見えない奥深さを肝銘されていました。

川上さんは本会を構成する団体として民生児童委員協議会が設立時から係わってきたことを述べられました。印象に残っている事業として友好親善都市の石川県七尾市の中越地震から災害救援の福祉マップ全市版を作成したことが語られました。

熊谷さんは綾歌町社協の事務局長として県下に誇る「いきいきサロン」を数多く開設されたことは多くの人が知るところであります。

司会を務められた鍛治さんは50年の歴史のなかで初めての民間出身のかたで、企業経営の手腕、柔軟な営業手法は本会に新風を吹込み、初代の藤田協会長のことを想うとき、なにか因果を覚えるとの藤田茂さんの回顧の言葉を噛みしめて「座談会を終えて」の拙稿といたします。

## 補（ほ）遺（い）

福祉という言葉には「幸福」という意味があり、福も祉も神から授かった「幸せ」という意味があります。記念コラム（三宅耕三氏）でも同様のことが記述されています。社会福祉を司る社協の役割も正に市民の幸せを守り修復することであります。菅首相が総理就任会見で「最少不幸の社会」をめざすと発言されましたが、社協もまた同じ方向であります。

社協は従来より行政と民間団体で構成され、「公共性のある民間法人」という旗を掲げてきました。半世紀を経てこれからの50年はさてどのような旗印を掲げていくか、座談会のなかにも示唆があります。社協は常にそのとき、その時代のニーズを先取りして市民の信頼を得てきました。わが国は今「人口減少社会」に突入しています。少子化、小家族化が進行しており、次世代を育成支援し、「子育て支援社会」の構築に役割を置くべきだと思います。

座談会を終えて想うことは七人のかたは皆さん長く社会福祉に携わってきた、いうなれば社協の過去、現在そして将来をも背負っていかれる方がたです。座談会でのご発言の一つひとつを社協の財産として心にとどめ置きたいと思います。長々とお世話になりました。お礼と感謝を申しあげます。有益な時間をありがとうございました。

上空より市街地を見下ろす